

世界に翔く宮崎牛

2000年12月号

No.28



第2回県肉畜共進会でグランドチャンピオンに輝いた岩崎勝也さん（川南町）（本誌2P）



岩崎勝也さんが生産したグランドチャンピオン枝肉



経営実績が認められ、日本農林漁業振興会会長賞を受賞された田中明跡氏（発表会授賞式にて）（本誌7P）



日本シリーズ頑張ってください。松形知事より長嶋監督へ宮崎牛を贈呈（10月10日宮崎市営球場にて）

12月号 目次

- **地域情報** 第2回宮崎県肉畜共進会が開催される from. 畜産会 2
- 第24回九州管内県連和牛枝肉共励会で宮崎が団体優秀賞を受賞 from. 経済連 3
- **口蹄疫対策等** 口蹄疫清浄国へ復帰しました from. 県畜産課 4
- ～伝染病発生予防のために～ 4
- めざそう稲わら完全自給 from. 経済連 5
- **経営事例紹介** ～田中明跡氏（串間市）が日本農林漁業振興会会長賞を受賞～ from. 畜産会 6
- **価格情報等** 肉用子牛生産者補給金制度について from. 子牛基金協会 7
- ～肉用子牛生産者補給金の積立金単価が改正されました～ 7
- JA肥育センター枝肉共励会で「上福・照萩」号期待どりの実力発揮 from. 家畜改良事業団 8
- **今後の行事予定（登録検査日程・子牛セリ日程）** from. 家畜登録協会 8

情報誌「世界に翔く宮崎牛」発行協賛団体

●宮崎県経済農業協同組合連合会 ●宮崎県肉用子牛価格安定基金協会 ●宮崎県家畜改良事業団 ●宮崎県家畜登録協会 ●宮崎県畜産会

第2回宮崎県肉畜共進会が開催されました

10月24日から26日にかけて、高崎町の宮崎くみあい食肉高崎工場にて、第2回宮崎県肉畜共進会が開催された。昨年に引き続いて従来の肉豚、枝肉の部にあたる今年度の共進会には、肉牛枝肉について100頭の出品があり、家畜改良の成果や肥育技術が競われた。

審査委員による厳密な審査の結果、グランドチャンピオンは「糸隆」を出品した岩崎勝也さん(川南町)が、団体賞は東臼杵郡市畜産農業協同組合連合会がその榮譽に輝いた。グランドチャンピオンの「糸隆」は枝肉重量452.1kg、枝肉歩留67.9%、ロース芯面積62cm²、BMS12、等級A5という成績であった。

全体成績は下記のとおりで、上物率が91%と前年より高く、枝肉単価の平均は2,611円であった。



東臼杵畜連が団体賞を受賞!



グランドチャンピオン枝肉は高値で取引!



間接検定成績の展示も行われた



白衣、長靴、帽子、手袋は必ず着用!



審査報告に聞き入る出席者(褒賞授与式)

区 分	出品頭数	屠入日齢(日)	屠出日齢(日)	枝肉重量(kg)	枝肉歩留(%)	ロース芯面積(cm ²)	BMS	肉質等級構成比(%)					枝肉価格(円)
								5	4	3	2	1	
全 県 平 均	100	284	610	455.6	64.4	63.0	7.0	37.0	54.0	7.0	2.0	0.0	2.611
郡 別 成 績	宮 崎	16	269	645	452.8	64.4	62.2	6.9	43.8	56.3	0.0	0.0	2.260
	綾	3	285	586	452.6	65.4	69.3	7.0	33.3	66.7	0.0	0.0	2.884
	南 那 珂	12	285	623	439.8	62.9	64.2	6.2	16.7	75.0	8.3	0.0	2.424
	北 諸 県	18	293	584	457.8	64.2	58.4	6.2	11.1	77.8	11.1	0.0	2.556
	西 諸 県	17	301	599	458.5	64.4	64.7	6.8	35.3	47.1	5.9	11.8	2.623
	児 湯	15	280	606	453.6	64.7	62.7	7.6	60.0	26.7	13.3	0.0	2.954
	東 日 杵	10	293	614	469.7	65.4	63.4	7.8	50.0	50.0	0.0	0.0	2.787
西 日 杵	9	261	612	460.6	64.5	66.8	7.9	55.6	33.3	11.1	0.0	2.698	
参 考 第 1 回	100	279	610	455.5	64.5	63.3	6.9	36.0	53.0	11.0	0.0	2.642	

第24回九州管内県連和牛枝肉共励会で宮崎が団体優秀賞を受賞

8月28日から9月2日にかけて、全農九州畜産センターにて第24回九州管内県連和牛枝肉共励会が開催された。九州管内から120頭が出場し、JAグループ一体となって肥育技術の研さんが行われました。

本県からは15頭が出場し、そのうちA5が13頭、BMSは8以上が14頭で団体優秀賞と団体努力賞を受賞した。生産者、JA、家畜改良事業団など関係機関に協力いただいたことが大きかった。

成績については、次のとおりです。

◆出品者

農 協 名	氏 名	賞	農 協 名	氏 名	賞
JA はまゆう	藤 元 敏 次	銀 賞	JA 西 都	黒 木 輝 也	銀 賞 1
//	安 楽 秀 光		JA 尾 鈴	杉 野 栄 一	
//	養 毛 稔 治		//	岩 崎 勝 也	
JA 都 城	平 川 洋 志		//	黒 黒 木 誠 学	銅 賞 1
JA こばやし	柏 原 博 文		//	黒 黒 木 信 夫	
JA 綾湯	沢 田 幸 夫		//	吉 川 盛 志	
JA 児 湯	永 友 成 勉		JA 高千穂地区	佐 藤 盛 志	

◆団体賞

区 分	出場頭数	団体順位	生体体重(kg)	枝肉重量(kg)	歩留(%)	ロース芯面積(cm ²)	BMS	肉 質 等 級 構 成(頭数)					枝 肉 価 格(円)
								5	4	3	2	1	
宮 崎	15	1	691.1	445.2	64.4	62.5	9	13	2	-	-	-	3,276
鹿 児 島	15	2	751.4	487.8	64.9	54.1	8	10	5	-	-	-	2,755
佐 賀	15	3	743.8	478.0	64.2	56.7	8	10	5	-	-	-	3,190
大 分	15	4	730.3	467.4	63.9	56.7	8	8	6	1	-	-	2,665
熊 本	15	5	731.2	470.9	64.3	55.7	7	7	5	2	-	-	2,633
長 崎	15	6	727.4	466.9	64.1	52.9	7	6	8	-	1	-	2,587
沖 縄	15	7	700.8	448.5	64.0	53.9	6	5	7	3	-	-	2,238
福 岡	15	8	722.1	463.8	64.3	50.3	6	4	6	4	1	-	2,213

口蹄疫清浄国へ復帰しました

◆我が国で92年ぶりに発生の見られた口蹄疫は、関係者の懸命な防疫活動により、5月10日、県内全ての牛飼養農場の清浄性が確認されました。

◆9月26日、OIE（国際獣疫事務局）の「口蹄疫その他疾病委員会会議」において我が国の口蹄疫清浄国への復帰が承認されました。



～ 伝染病発生予防のために～

① 農場専用の衣類、長靴等の使用

家畜管理用の衣服、長靴のまま、他の農場等に入りますと、病原体の持ち込みにつながりますので、農場専用のものに履き替えましょう。

② 農場への立ち入り制限

病原体侵入防止のため、農場内にむやみに人を入れないようにしましょう。



③ 消毒の励行

長靴の踏み込み消毒槽等を常に設置し、汚れたら新しい消毒薬と交換しましょう。

また、畜舎の定期的な消毒を実施しましょう。



④ 日誌・作業記録等の励行

常日頃から、家畜の健康状態、作業内容、来訪者等の記録をつけるように心がけましょう。

⑤ 導入家畜の隔離観察

導入家畜は3週間は隔離し、健康状態を観察しましょう。

※伝染病のまん延防止には、早期通報、早期診断が重要です。異常家畜を発見したら、獣医師か最寄りの家畜保健衛生所にお知らせください。

めざそう稲わら完全自給!

～耕種・畜産農家の連携で国産稲わら等を活用しよう～

(1) 国産稲わらの活用で、安全・安心な畜産経営の確立を図りましょう。

92年ぶりに本県で発生した口蹄疫の原因として、輸入粗飼料の可能性が高いことが報告されました。

本県の畜産農家は、稲わら利用量の約3割にあたる約34千トンほどを輸入しており、今後は、安全な粗飼料確保を図るとともに、経営の安定化の上からも、国産稲わらの利用を促進することが重要です。

◆畜産農家の稲わらの利用状況

区 分	畜産農家の利用量	飼料用	敷料用
全国 (千t)	2,071	1,447	624
宮崎 (千t)	132	117	15



(2) 十分に利用可能な国産稲わら

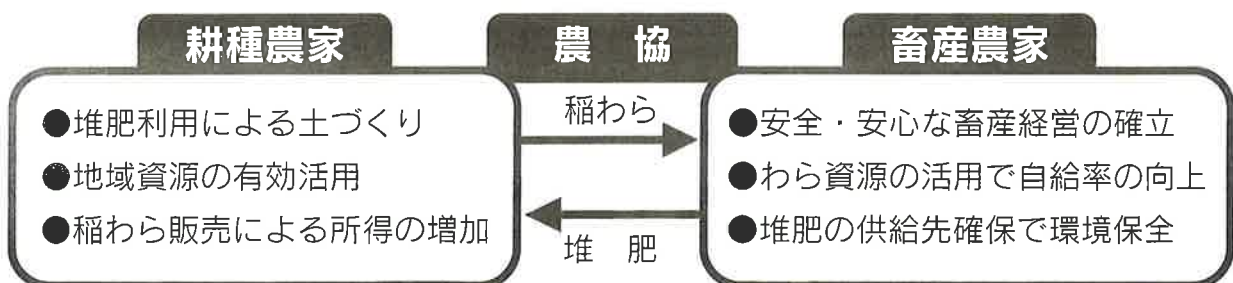
本県の稲わらの生産量は約11万7千トンで、その6割が飼料として利用されていますが、2割が焼却やすきこみ等低位に利用されています。

全国的には、飼料利用は1割にとどまり、6割が焼却や鋤込みとなっており、国内資源の有効活用の方からも国内産の有効利用を促進する必要があります。

◆稲わらの生産状況等 (平成9年産)

区 分	わら生産量	飼料用	敷料用	加工用	堆肥用	焼却・その他	水稻作付面積 (千ha)
全 数量 (千t)	9,634	1,267	613	203	1,822	5,729	1953
国 割合 (%)	(100)	(13.2)	(6.4)	(2.1)	(18.9)	(59.4)	
宮 数量 (千t)	117	66	15	1	11	24	26
崎 割合 (%)	(100)	(56.4)	(12.6)	(1.2)	(9.5)	(20.3)	

(3) 稲わらは、耕種と畜産を結ぶ重要な資源です。



国産稲わら等の利用促進対策

1) 飼料イネ緊急生産拡大推進事業

飼料イネの作付け拡大

●12年度：採種圃20ha、種子生産60t

●13年度：作付け2,000ha、収量20,000t

2) 稲わら安定確保体制緊急整備事業

●農協による耕種農家と畜産農家の需給調整

●稲わらを収集する農協・営農集団に対する機械整備への助成



農協単位での稲わらの供給体制の整備

3) 国産粗飼料増産緊急対策事業

●農協・営農集団等が稲わらを供給する場合に定額助成

一般タイプ：3年間の供給契約

→初年度15円/kg、2・3年度10円/kg

特別タイプ：5年間の供給契約（毎年おおむね50t以上）

→ ①初年度30円/kg、2・3年度20円/kg、4・5年度15円/kg

又は

②初年度～3年度 30円/kg

田中明跡氏（串間市）が日本農林漁業振興会会長賞を受賞！

経営の概要	労働力員数（畜産）	家族	1.9（2000時間/年=1人）
		雇用	0（人）
生産性	成雌牛平均飼養頭数		62.8（頭）
	飼料生産用地延べ面積		660（a）
	年間子牛販売・保留頭数		51（頭）
	平均分娩間隔		12.1（ヶ月）
	雌子牛1頭当たり販売・保留価格		363,491（円）
	雌子牛販売・保留時日齢		295（日）
	雌子牛販売・保留時体重		257（kg）
	雌子牛日齢体重		0.871（kg）
	去勢子牛1頭当たり販売・保留価格		468,264（円）
	去勢子牛販売・保留時日齢		269（日）
去勢子牛販売・保留時体重		278（kg）	
去勢子牛日齢体重		1.033（kg）	

（10年次実績）

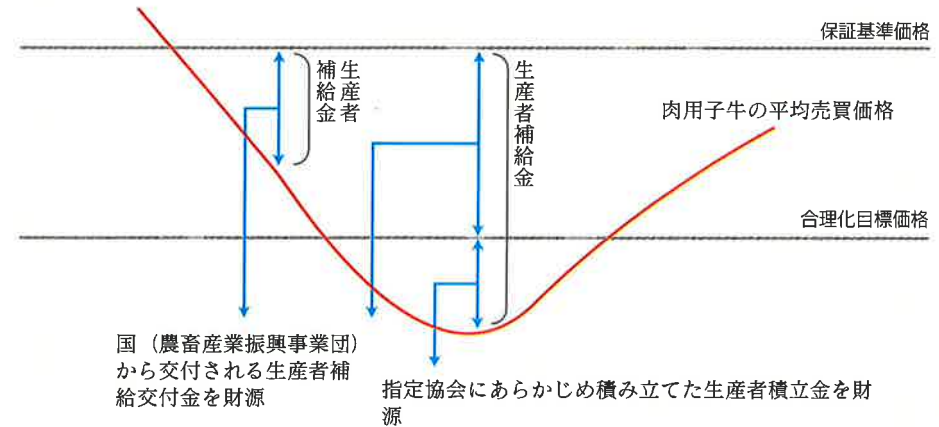
11月23日、明治神宮において農林水産祭式典が行われ、田中明跡氏（串間市・肉用牛繁殖）が農林水産業者・団体の荣誉である日本農林漁業振興会会長賞を受賞された。これは、農林水産祭中央審査委員会において、本年度の農林水産祭参加行事における農林水産大臣賞受賞者の中から、書面審査及び現地調査等慎重な審議を重ねた上、選考・決定されたものである。第32回肉用牛経営発表会で農林水産大臣賞を受賞した田中氏は、串間市肉牛研究グループの組織活動における経営状況の点検や牛舎巡回等の実施、高能力の自家産牛を中心とした規模拡大、適正管理による継続した1年1産の目標が達成されていること等が評価された。今後は、奥さんと力を合わせ、より一層の経営の充実を図り、ご両親には悠々自適の生活を送らせてあげたいとのこと。

経営状況の点検や牛舎巡回等の実施、高能力の自家産牛を中心とした規模拡大、適正管理による継続した1年1産の目標が達成されていること等が評価された。今後は、奥さんと力を合わせ、より一層の経営の充実を図り、ご両親には悠々自適の生活を送らせてあげたいとのこと。

肉用子牛生産者補給金制度について

肉用子牛の生産者補給金制度は、肉用子牛の価格が低落し、保証基準価格を下回った場合に、生産者に対し生産者補給金を交付する制度です。

◎肉用子牛生産者補給金制度の仕組み



肉用子牛生産者補給金の積立金単価が改正されました

このことにより生産者の負担金は下記のとおりとなります。なお、乳用種と乳交雑種（F1）は今年度から品種分離されたため、それぞれについて負担金が設定されました。

品 種	11年度 積立金単価/頭		12年度 積立金単価/頭		備 考
		生産者負担分(1/4)		生産者負担分(1/4)	
黒毛和牛	9,900	2,475	9,900	2,475	改正なし
褐毛和牛	20,000	5,000	11,900	2,975	改 正
肉専以外	24,000	6,000	—	—	—
乳用種			12,700	3,175	新 設
乳交雑種（F1）			6,200	1,550	新 設

※ 積立金の1/2は国が、1/4は県が、1/4は生産者が負担する。

※ 新単価は平成12年1月2日生まれの子牛から適用。

指定肉用子牛保証基準価格及び合理化目標価格

		12年度	13年度
保証基準価格	黒毛和種	304,000	304,000
	褐毛和種	280,000	280,000
	その他の肉専用種	200,000	200,000
	乳用種	131,000	131,000
	交雑種	175,000	175,000
合理化目標価格	黒毛和種	267,000	267,000
	褐毛和種	246,000	246,000
	その他の肉専用種	141,000	141,000
	乳用種	80,000	80,000
	交雑種	135,000	135,000

13年度の保証基準価格及び合理化目標価格は据え置きとなりました。

(単位：円/頭)

JA肥育センター枝肉共励会で「上福・照萩」号期待どおりの実力発揮

平成12年度JA肥育センター共励会が9月21日都農町のくみあい食肉都農工場で開催されました。

本県は、ここ数年安平号を中心に優秀種雄牛の供用で子牛価格は堅調に推移しています。しかし、現在活躍中の種雄牛も年々高齢化が進み、また、改良等を考慮すると新規の優秀種雄牛の造成が急務と考えられています。

本誌には、産肉性に優れた種雄牛の間接検定の成績、プロフィールを紹介していますが、今回は、

JA肥育センター共励会で確実に好成績を収めはじめた上福・照萩号の産肉成績を紹介致します。

上福・照萩号は、共に兵庫県美方郡で誕生した8才の雄牛です。全国和牛登録協会が認定する間接検定では、脂肪交雑基準値が上福号3.5照萩号4.1【日本一】であり県内外から注目されていますが、フィールドでの実績がまだ少なく、子牛価格に反映されてなかったところです。しかし、今回の共励会でその産肉性は期待どおりの実力が発揮された様に思われます。今後は、宮崎県種雄牛スタッフの中で確実にトップクラスの仲間入りをしてくるものと期待されています。



	枝肉(kg)	BMS(NO)	ロース芯	バラ厚
上福(6頭)	438.5	7.5	60.3	7.7
照萩(4頭)	461.1	7.75	61.7	8.0
出品頭数平均(52頭)	439.1	6.2	57.6	7.9

今後の行事予定

